

イタリアを通して見る神の愛

はじめに

- (1) 今年は、ミラノの聖書塾のため、2度もイタリアを訪問する機会が与えられた。
- (2) 2度目の訪問では、ローマまで足を延ばした(ローマは初めての訪問)。
- (3) 普段はエルサレムからローマを見ていた。
- (4) 今回は、ローマからエルサレムを眺めるという体験ができた(写真(1)(2))
- (5) その体験を分かち合い、最後に、聖書からまとめのメッセージを語りたい。

アウトライン

- (1) バチカンとサン・ピエトロ大聖堂
- (2) サンクタ・スカラ教会
- (3) ローマのゲッター
- (4) ミラノ
- (5) 結論

イタリア訪問で感じたことを分かち合う。

I. バチカンとサン・ピエトロ大聖堂

1. バチカン市国(写真(3))
 - (1) 世界一小さな国
 - (2) 1929年、教皇ピウス11世とムッソリーニ首相の合意(ラテラノ条約)
 - (3) カトリック教会の総本山である。
2. サン・ピエトロ大聖堂とその前に広がる大広場(写真(4))
 - (1) カトリックの伝承によれば、ここは使徒ペトロの墓所を祀る聖堂であった。
 - (2) システィーナ礼拝堂(写真(5))
 - ①ローマ教皇の公邸であるバチカン宮殿にある礼拝堂
 - ②サン・ピエトロ大聖堂北隣に位置する。
 - ③ミケランジェロの『最後の審判』(1535~1541年)(写真(6))
 - ④バチカン博物館に展示された美術品(歴代法王によるコレクション)
 - (3) バチカンの富と力はなんと計り知れないものであろうか。
 - (4) 羊を囲う洞窟から始まったキリスト教のひとつの到達点がある。
 - ①それが信仰的に正しいかどうかは別問題である。
 - ②バチカンの栄華の中には、ユダヤ的要素のかけらも見当たらない。

II. サンクタ・スカラ教会

1. サンクタ・スカラ教会(聖なる階段)には、ピラトの階段と言われるものがある。
 - (1) この階段は、伝承によれば、ピラトの官邸にあったもの。
 - (2) その小さな教会をようやく探し出し、中に入って驚いた。
 - ①大理石でできた28段の階段があり、それが木版で覆われている。
 - ②その階段を、30名ほどの巡礼者たちが膝で上っていた(写真(7)(8))。

2. あのマルティン・ルターが上った階段ではないか。直感的にそう思った。
 - (1) ドイツからローマにやってきた修道僧ルター
 - (2) ピラトの階段を両膝ではいずって上れば、罪が赦される。
 - (3) 苦行の痛みに耐えながら階段を上っていたとき、神の声を聞いた。
 - ①「義人は、信仰によって生きる」
 - ②これは、宗教改革が起こるきっかけとなる重要な出来事であった。
 - (4) サンクタ・スカラ教会には、ルターに関する説明は一切ない。
 - ①その沈黙が逆に、この階段の歴史的意義を証言しているように思えた。

III. ローマのゲッター

1. ローマのユダヤ人地区(写真(9)(10))
 - (1) ユダヤ人レストランでの体験
 - ①コシエルを実行していた。
 - ②2000年前から存在する。

2. ユダヤ人の歴史
 - (1) ローマにユダヤ人たちが住み始めたのはマカベア戦争の頃からだとされる。
 - (2) イエス時代になると、大量のユダヤ人たちが定住するようになる。
 - (3) パウロがローマ人への手紙を書いた頃のローマ教会
 - ①メシヤニックジューと異邦人信者が共存する共同体

3. 異邦人教会がユダヤ人たちに行ってきた数々の悪行
 - (1) ローマのゲッター(3ヘクタール強の地区)
 - ①1555年にパウロ4世がユダヤ人たちを壁の中に囲い込んだ。
 - ②そのゲッターは、その後300年も続いた(写真(11)(12))。

 - (2) 壁が取り去られて以降も、ユダヤ人の労苦は続いた。
 - ①第二次世界大戦中、2000名強がナチスの強制収容所に送られた。

②それでも彼らは、この地に生き続けている。

IV. ミラノ

1. 歴史

(1) キリスト教が異邦人化していく過程で、ミラノ勅令が果たした役割は大きい。

①313年に、ローマ皇帝コンスタンティヌス1世(西方正帝)とリキニウス(東方正帝)が連名で発布した。

②それまで迫害下にあったキリスト教は、公認宗教となった。

③「異邦人教会の拡大とメシアニックジュー消滅の時代」に突入した。

④321年には日曜日を安息日とする法律が作られた。

⑤392年には、キリスト教が国教化された。

⑥現代の反ユダヤ主義的な神学体系は、4世紀にはすでに出来上がっていた。

(2) ミラノで聖書塾を開催した意義は大きい(写真(13)(14))

2. ドゥオーモ(写真(15)(16))

(1) 黄金のマリア像

3. 最後の晩餐(写真(17))

(1) サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ修道院

(2) 420 cm × 910 cm

(3) ユダヤ的要素は全くない。

4. エルサレム・ローマ・日本がつながった。

(1) 「キリスト教とは、世界観であり歴史観である」

V. 結論

(例話) スペイン、アラゴン州サラゴサ県ボルハ市 Sanctuary of Mercy Church
「この人を見よ」というフレスコ画(エリアス・ガルシア・マルティネス)
修復者 セシリア・ヒメネスという女性(80歳)

Rom 1:16 私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。

1. ローマ人への手紙は、紀元57年ごろに書かれた。

(1) ローマには、ユダヤ人も異邦人もいた。

(2) ユダヤ人は「しるし」を求めた。

- (3) ローマ人は「力」を求めた。
- (4) ギリシア人は「知恵」を求めた。

2. パウロは、自分は福音を恥とはしないと語った。

- (1) 福音は、信じるすべての人に救いを得させる神の力である。
- (2) 先ずユダヤ人、次に異邦人。
- (3) すべての人は、同じ方法で救われる。
- (4) 救いとは、「神の怒り」からの解放である。
 - ①「神との平和」を持つことである。
 - ②恐れるものがなくなり、平安な人生を送れるようになることである。

3. 福音の内容とは何か。

1Co 15:1 兄弟たち。私は今、あなたがたに福音を知らせましょう。これは、私あなたがたに宣べ伝えたもので、あなたがたが受け入れ、また、それによって立っている福音です。

1Co 15:2 また、もしあなたがたがよく考えもしないで信じたのでないなら、私の宣べ伝えたこの福音のことばをしっかりと保っていれば、この福音によって救われるのです。

1Co 15:3 私があなたがたに最もたいせつなこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、

1Co 15:4 また、葬られたこと、また、聖書の示すとおりに、三日目によみがえられたこと、

1Co 15:5 また、ケパに現れ、それから十二弟子に現れたことです。

- (1) キリストは私たちの罪のために死なれた。
- (2) また、葬られた。
- (3) 三日目によみがえられた。

4. 救いの道は、恵みと信仰による。